徳島市民病院だより

〒770-0812　徳島市北常三島町２丁目34番地　徳島市民病院
Tel(088)622-5121(代表)

平成28年 10号
平成28年6月

徳島市民病院の理念
「思いやり・信頼・安心」

院長就任のご挨拶

三宅　秀則

徳島市民病院の第19代病院長就任にあたり、ひと言ご挨拶を述べさせていただきます。徳島県内で最も長い歴史を誇る公立病院である当院とのご縁は昭和62年4月に外科医師として赴任し、2年間勤務したのが最初です。その後、平成16年4月に外科主任医長として着任し、現在に至っております。この間、消化器外科専門医として、消化器がんの中でも肝臓がん・胆道がん・膵臓がんの診療を専門として行ってきました。外科医としてのキャリアの大部分を大学病院と市民病院で積み、そういう意味では、当院で育てられたと言っても過言ではありません。

平成26年4月に惣中康秀院長の下で副院長に就任し、翌27年4月からがんセンター長も兼ね病院経営の一端を担って参りましたが、院長を拝命するにあたり「安全で質の高い医療の提供と、厳しい医療環境の中で経営基盤の安定化を図ること」が自分に課せられた使命であると強く感じております。

徳島市民病院は、昭和3年2月に内科のみの市立実費診療所として市役所の隣に開設されたのが前身であります。急性期医療を担当する地域の基幹病院として地域医療支援病院、地域がん診療連携拠点病院、地域周産期母子医療センターおよび災害拠点病院、基幹型臨床研修指定病院、臓器提供施設などの指定を受け、救急医療、地域医療、災害医療に重きを置いています。その上で、中四国では有数の手術数を誇る整形外科を中心に「脊椎・人工関節センター」を、さらに県内有数のお産件数を誇る婦人科と小児科を中心に「地域周産期母子医療センター」を設置しておりましたが、さらにがん患者さんのトータルケアを目指して2015年4月に「がんセンター」を開設しました。がん患者さんの早期社会復帰を目標としておりますが、2016年4月からは、24床の緩和ケア病棟も運用し徳島県下ではまだまだ遅れているとされている、がん患者さんに対する緩和ケアの充実にも力を入れていく方針であります。

これらの3つのセンターを中心にチーム医療をより充実させ、病院の理念「思いやり・信頼・安心」を基本として、医師会の先生方との医療連携をさらに推進するとともに、徳島大学病院との連携をより深め、医療従事者や医学部学生の「教育・研修機関」としての役割も果たしたいと考えております。今後とも何卒暖かいご支援をよろしくお願い申し上げます。

副院長を拝命して

古本　博孝

4月1日から副院長を拝命しました産婦人科の古本博孝です。私は1992年から21年間徳島大学産婦人科で婦人科腫瘍をやってきました。2013年4月から徳島赤十字病院へ出向しましたが、徳島市民病院に癌センターを設立するとのことで、2015年4月から市民病院に勤務しています。私は家も市民病院に近く、私の母も義理の母も市民病院で手術を受けていますし、また入局1年目の時は市民病院に大変お世話になり、医師として育ててもらったので、市民病院には大変愛着があります。

市民病院は規模も小さく、いろいろと問題もありますが、すばらしい点も多々あります。今後は長所をさらに伸ばし、弱点を補強しながらより良い病院になっていきたいと思います。私は“市民病院に行けば大丈夫”というブランドになりたいと思います。そのためには患者目線で親切であることも大事ですが、やはり医療レベルが高いことが最も重要であると考えます。

これまでは患者をみることに最大のpriorityがあり、手術や外来で会議には出席できないことが多かったのですが、今後は病院全体のことを考え、より良い病院になるよう微力ですががんばっていきたいと思います。ご指導ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。

新診療部長ご紹介

新しい診療部長として4人が5月1日付で昇任しました。内科の岸史子、橋本年弘両主任医長と、産婦人科の山本哲史主任医長兼内視鏡手術管理センター副センター長、放射線科の生島葉子主任医長の皆さんです。

内科
岸 史子
経験年数：25年
＜専門分野＞
内科一般・消化器

内科
橋本 年弘
経験年数：25年
＜専門分野＞
血液内科

産婦人科
山本 哲史
経験年数：25年
＜専門分野＞
産科婦人科

放射線科
生島 葉子
経験年数：28年
＜専門分野＞
画像診断

新任医師ご紹介

13人の医師が4月から当院に着任しました。小笠原卓、宇山攻（いずれも外科）、雫治彦（耳鼻咽喉科）、野田利紀（皮膚科）の主任医長4氏のほか臨床研修医4人も含まれます。皮膚科は3年ぶりに常勤医が復活しました。

内科
医師
津保 友香

外科
主任医長
小笠原 卓

外科
主任医長
宇山 攻

外科
医長
四方 祐子

整形外科
医師
松村 肇彦

産婦人科
医師
鎌田 周平

耳鼻咽喉科
主任医長
雫 治彦

皮膚科
主任医長
野田 利紀

泌尿器科
医長
尾﨑 啓介

臨床研修医
研修医２年目
布村 俊幸

臨床研修医
研修医１年目
宮田 好裕

臨床研修医
研修医１年目
弘田 健太郎

臨床研修医
研修医１年目
田村 暢章

「徳島市民病院」のLED看板が完成

徳島市民病院が建て替えられて8年余り。正面玄関と北面の2カ所に徳島市民病院のLED看板が完成しました。

正面玄関上の3階西向きの外壁には「徳島市民病院」の文字が出現。もう一カ所、北面4階ベランダの方はアルファベットで「TOKUSHIMA MUNICIPAL HOSPITAL」の文字が取り付けられました。夜間それぞれ淡い白色のLEDで文字を浮かび上がらせています。

長い歴史を誇る公立病院でありながら、改築後は見やすい位置に看板がなかったことから「通行量の多い国道11号を通過する市民・県民だけでなく、県外からの来訪者にも市民病院の存在を認識してもらおう」と設置することにしました。27年12月に着工し28年3月に完成しました。

北側の看板は今年からはイルミネーションとのコラボが実現することになり、話題を呼びそうです。

患者支援センターの充実・強化
28年度の取り組み紹介

徳島市民病院は当初予算をベースに「28年度の新たな取り組み」を別図の通り決定しました。第一のポイントは当院の特色である地域周産期母子医療センター、脊椎・人工関節センター、がんセンターという「3センターの充実・強化」です。第二のポイントは「患者支援センターの充実強化」、そして最後が「経営健全化の取り組み」です。新規施策を中心に内容をご紹介します。

□周産期母子医療向上への外来体制　母乳に関する悩みやトラブルに対応する「母乳外来」、助産師による妊婦検診、妊娠、分娩の保健指導を行う「助産師外来」を設置します。

□周産期医療の施設環境整備　分娩数の増加に対応するため、分娩台やウォーマーを購入します。

□緩和ケア病棟の開設　27年度に設置した緩和ケア病床（5床）を28年4月から24床の緩和ケア病棟に拡充します。

□がん患者の就労支援　ハローワークと連携を図り、がん患者の就職や転職の相談に応じる取り組みを実施します。5月末から実際に稼働する予定です。

□がんリハビリテーションの実施　がんリハビリテーションを本格的に実施することにしています。体成分分析装置など機器の購入、スタッフの研修に取り組みます。

□がん専門スタッフの確保と養成　がん患者へのトータルケアの構築を図るため医師、薬剤師、管理栄養士、臨床心理士などスタッフを拡充します。

□リハビリテーション機能の強化　在宅復帰に向けた支援体制を強化するため、機器を購入し回復期リハビリテーションの患者受け入れを促進します。

□入退院支援の強化　患者支援センターでの入退院支援をサポートするソーシャルワーカーを増員します。

□案内・相談機能の強化　来院患者やそのご家族からの質問・要望、よろず相談に応じる「コンシェルジュ」を設置します。

□在宅復帰支援体制の強化　徳島糖尿病克服ネットワーク協議会のネットワークに参画し、かかりつけ医との情報共有化を図り連携を強化します。

平成28年度　市民病院の新たな取組み

3センターの充実・強化

○周産期母子医療体制の充実
- ①周産期母子医療向上への外来体制
- ②周産期医療の施設環境整備

○リハビリテーション機能の強化
- ①リハビリテーション施設の基盤整備と在宅復帰に向けた支援体制の構築

○がん患者へのトータルケア構築
- ①緩和ケア病棟の開設
- ②がん患者の就労支援
- ③がんリハビリテーションの実施
- ④がん専門スタッフの確保と養成

患者支援センターの充実・強化

○入退院支援体制の強化
○案内・相談機能の強化
○在宅復帰支援体制の強化

経営健全化の取り組み

○経営戦略室の設置
○情報収集と分析強化

入退院支援スタッフの制服が新しくなりました

患者支援センターの入院受け付け業務を担当しているスタッフのユニフォームが4月上旬から新しくなりました。これまでの黒っぽい紺から女性はピンク、男性はブルーの半袖ポロシャツに変わりました。左肩の袖の部分にエンブレムプリントを配し「かっこいいね」と着る側からも好評です。

病院内の医療専門職は白衣が一般的だったので、ドクターとそれ以外の職種のスタッフとの違いが分からないという難点がありました。しかし、最近では職種ごとにユニフォームの色合いを変える傾向にあるといわれています。

患者サロン ハーモニカコンサート

「患者サロンなごみ」が4月28日にあり、ハーモニカコンサートが当院1階エントランスホールで催されました。大編成によるハーモニカの合奏と、華やかなフラダンスを約30人が楽しんでいました。

演奏したのは「アルモニカバンド」（大草リーダー）。バスハーモニカなど通常よりも大きいサイズのハーモニカを手にメンバー11人が「ああ上野駅」「青い山脈」「荒城の月」など唱歌や童謡、おなじみの歌謡曲12曲を次々に演奏しました。また演奏の合間には女性2人によるフラダンスショーも披露され、鮮やかな花柄の衣装と優美なパフォーマンスが花を添えました。

ホールではがんの患者さんやご家族のほか一般の人たちも耳を傾けていました。コンサートのあと会場を移し、患者さん同士で近況を語り合っていました。

接遇や院内環境面に高評価

患者満足度調査結果まとまる

患者さんの徳島市民病院に対する評価・満足度を探るため、28年1月に行った外部委託調査の結果がまとまりました。調査は外来部門と入院部門の2種類で、当院は多くの項目で調査した全国103病院平均をかなり上回り、高い評価を得ていました。

《外来》

調査内容は当院の選択理由、予約の有無、診察待ち時間、個別満足度など。非常に満足、満足、どちらともいえない、やや不満、不満の5段階を目安に満足指標を算出しました。

受け付けから診察までの待ち時間は平均41・2分。予約有無別では「あり」が39・9分「なし」が62・5分でした。

個別満足度に関する設問は別表（左）の通り。施設、接遇、診察、時間の24項目。院内施設面では非常に満足、満足合わせて86％が〝満足〟と感じていて、満足指数は調査病院平均を9・1ポイント上回りました。

接遇面では90・4％が〝満足〟しており、「看護師の言葉使いや態度」「医師の言葉使いや態度」では95％近くの人が満足と感じていました。

診察面では86・8％が〝満足〟と感じています。看護師、医師に関する各項目とも非常に高い満足度が得られました。

4つの要素を合計して算出した総合満足度は75・1点で、調査病院平均に比べ、8・1ポイント高く、4要素ごとでも全て平均以上でした。

《入院》

調査内容のうち個別満足度の設問は別表（右）の通りで、院内施設、病室環境、接遇、診察についての24項目。

非常に満足、満足を合わせて〝満足〟していた割合は病室環境では86・7％接遇面全般では91・8％で不満はゼロでした。診察サービス面全般でも95・1％が〝満足〟していました。

総合満足度は80・3点で、調査病院平均を4・6ポイント上回りました。

＜外来部門＞

	患者満足度個別質問項目
施設面	総合待合室の設備や雰囲気
	各科の待合室の設備や雰囲気
	診察室や検査室の設備や雰囲気
	トイレや洗面所設備
	案内看板や表示のわかりやすさ
	売店、食堂、自動販売機
	駐車場の広さや入りやすさ
	院内施設面全般について
接遇面	総合案内や会計の応対
	各科診療受け付けの応対
	看護師の言葉使いや態度
	医師の言葉使いや態度
	検査・放射線技師の言葉使いや態度
	接遇面全般について
診察面	看護師の説明のわかりやすさ
	医師の病状や検査結果の説明
	医師への質問や相談のしやすさ
	医師の診断や処置への信頼感
	プライバシーへの配慮
	診察面全般について
時間面	診察待ち時間
	診察時間
	診察後の支払いまでの待ち時間
	時間面全体について

＜入院部門＞

	患者満足度個別質問項目
院内施設面	建物の外観やつくり
	医療機器等の設備
	トイレ、洗面、給湯等の設備
	売店、食堂、自動販売機
	整理整頓や清掃状態
	院内施設面全般について
病室環境面	病室の居心地(清潔さ・広さなど)
	ベッド、寝具、ベッド周り設備
	冷暖房や照明
	食事の内容
	食事時間や起床・消灯時間
	病室環境面全般について
接遇面	事務職員の言葉使いや態度
	看護師の言葉使いや態度
	医師の言葉使いや態度
	検査・放射線技師の言葉使いや態度
	プライバシーへの配慮
	接遇面全般について
診療面	看護師の説明のわかりやすさ
	看護師の採血や介助の手際よさ
	医師への質問や相談のしやすさ
	医師の病状や検査結果の説明
	医師の病状に対する処置の適切さ
	診療サービス面全般について

お知らせ

病院まつり開催

日時：7月23日（土）
9時～13時

場所：徳島市民病院
1階および2階

内容：こどもお薬教室、体力テスト、ハンドマッサージ、お口のチェック、バザーなど楽しいイベントが盛りだくさんです。是非お越しください！！

熊本地震支援へ

DMAT・看護師派遣

熊本地震を支援するため徳島市民病院は4月20日に災害支援医療チーム（DMAT）を派遣しました。また、徳島県の要請に基づいて災害支援ナースとして当院看護師1人が4月23日から5日間、現地での支援活動を行いました。

DMATチームは宮本理司医師と永坂尚美、猪子美由紀の両看護師、斉藤辰彦薬剤師、森田敏文事務職員の5人で編成。

チームが派遣された大阿蘇病院は150人を超える入院患者を収容する療養型施設。当院チームは21日と22日の2日間にわたり現地スタッフの応援に入りました。薬剤師、事務職は昼間の業務を引き受け、医師、看護師は主に夜間の当直を分担しました。21日には急患1人を治療したほか、3つの病棟を県立中央病院看護スタッフと手分けして受け持ちました。

災害支援ナースとして県看護協会派遣の医療チームに加わったのは三原美子副看護師長。23日昼に出発。24日夜から翌朝まで阿蘇温泉病院の緩和病棟で、また25日夜から翌朝までは大阿蘇病院で夜勤勤務を担当しました。車いすの患者さんのトイレ介助や、点滴、おむつや体位の交換、病棟ラウンド、救急患者の受け入れなど多くの任務をこなしました。

大阿蘇病院で活動した当院DMATチーム（後列右側の5人）

編集：徳島市民病院　広報管理室　TEL（088）622-5121（内線 2333・2103）　印刷：星印刷株式会社　〒770-0936 徳島市中央通2丁目19番地　TEL（088）652-7508